

報道関係各位

ベトナム「キズケア」教育事業 手当のぬくもりを世界の子どもたちに！ 「BAND-AID® X Save the Children」プロジェクトが終了

社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

子ども支援の国際NGO社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下SCJ）は、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社コンシューマーカンパニー（本社：東京都千代田区、代表取締役 プレジデント：柴田透）の支援により展開したキズケア教育事業「『BAND-AID®xSave the Children』プロジェクト」を終了しました。

アジア諸国では、一般的な「キズケア」に関する知識、物資がまだまだ不足しており、不適切な「キズケア」が原因で多くの子どもの成育が大きな影響を受けています。本プロジェクトの対象地域となったベトナムでは、自国の経済成長を効果的につなげることで子どもの成育環境に目まぐるしい改善が図られた一方、地域間・性別・民族間における社会的格差は拡大の一途を辿っています。そのような背景の中、ベトナム政府は、「国家傷害予防計画 2002-2010年」を策定しましたが、山岳部及び、少数民族の地域においてはほとんど機能していないのが現状となっており、毎年約7,000名にのぼる子どもたちがけがで命を落としています。

この状況を受け、SCJは、「手当のぬくもり」を知らない子どもたちへの適切な「キズケア」教育の実施を願うジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社と協働で「BAND-AID®xSave the Children」プロジェクトを展開しました。同プロジェクトは、ジョンソン・エンド・ジョンソンが、対象期間（2009年6月～12月）の「バンドエイド」®ブランド全製品の売上の一部をSCJに寄付し、SCJが同資金をもとに現地にて子どものケガ・傷害の予防/ケアを普及させるための活動を行ったものです。ジョンソン・エンド・ジョンソンからの寄付金は目標額を上回る920万円となり、現地の子どものための活動のために活用されました。（プロジェクト概要は次頁参照）

本プロジェクトを通し、村の定例会議に子どものケガ予防のための活動を取り入れることが合意されたほか、作成したパンフレットが村の保健師や教師に活用されるなど、地域のケガ予防意識の向上に貢献することができました。SCJは今後もベトナムにおける子どもの支援活動を継続していきます。



小学校での課外活動の様子

■セーブ・ザ・チルドレンとは

1919年設立。数少ない団体にだけ認められた、国連経済社会理事会(UN ECOSOC)のNGO最高資格である総合諮問資格(General Consultative Status)を取得しています。現在、世界で29カ国のそれぞれ独立した組織が、パートナーを組み、世界最大のネットワークを活かして、120カ国以上で活動を展開しています。

参考資料

◆プロジェクト概要

「BAND-AID® x Save the Children」プロジェクト

実施期間	2009年6月～12月（ジョンソン・エンド・ジョンソン寄付活動期間） 2009年6月～2010年5月（SCJ現地活動期間）
支援対象者	7歳以下の子ども、保護者、幼稚園教員および小学校教員など約16,000名
活動地域	ベトナム イエンバイ省ルックイエン郡
主な活動内容	①参加型調査や子どものケガ・傷害に関連するデータ収集の実施。 ②データを踏まえ、政府や教育関係者・地域団体に向けてワークショップやセミナーを実施。ワークショップやセミナーでは、子どものケガ・傷害予防に関する意識向上や、政策提言活動を行った。 ③地域住民、女性同盟および教育機関が連携して地域住民のケガや傷害の予防活動を実施。 ④自らの地域における現状の問題点や強みを分析し、ケガ・傷害の予防・ケアを普及させる体制作りを支援。

■支援を受けた方々からのコメント

イエンテー・コミュニティのチャンフー小学校2年生、グエン チ ミン フオンさん

「学校で交通事故について教わりました。私も友達が木から落ちて骨折したのを見たことがあります。ケガ・事故防止については、授業では教わらないことを習い、大変ためになりました。ケガ防止についての課外活動は、ケガの問題についてよくわかるようになり、私自身や周囲の人が安全に過ごす為の活動へ積極的に参加していくのにとっても役立ちました。」

ルックイエン郡教育局課長代理、フオン タイ クアンさん

「事業のおかげで5コミュニティ内の教師や保健師は、学校での保護者の意識向上のための活動能力を強化することができました。保護者や家族は家庭でのケガ防止に関する知識や実践を深めることができました。事業実施期間は短かったけれど、コミュニティに、子どもの発育に著しく影響を与える子どものケガ予防がどれだけ重要であるかを説くことができました。また、DSC（郡運営委員会）とCSC（コミュニティ運営委員会）のメンバーは、子どものケガ予防の知識を深めただけでなく、財務管理、コーチング、監督における管理能力も強化することができました。事業を実施したことによって、多くの経験を得ました。感謝しています。」

カインティエン・コミュニティ、4歳の子どもを持つ母、ハー チー バンさん

「これまで、私の両親がして来たように、子どもの世話と教育は私が行って来ました。娘を犬や猫と遊ばせることはよくあったし、落ちてケガをしてしまったこともあります。多くの子ども達が動物と遊んだり、転落してケガをしたりしているので、大丈夫だと思っていました。しかし、ケガ予防事業が始まり、多くの知識を得ました。今になってみれば予防策を持たないでいるといつでも赤ちゃんに取り返しのつかない事故が起こり得る、ということが理解できます。こうして私達が予防策や応急処置を実践すれば、子どもの傷害の危険を最小限に抑え、ひいては家族が治療に費やさねばならなかったかもしれない費用を浮かせることとなります。今は以前より用心しています。事業のおかげです。ありがとうございます。」

（参考）ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社「バンドエイド®」ブランド

「バンドエイド®」が、日本に初めて紹介されたのは1959年。昨年、「バンドエイド®」は日本発売50年目を迎えました。「バンドエイド®」の誕生は、1921年のアメリカ。ジョンソン・エンド・ジョンソンの購買部でバイヤーをしていた28歳のアール・E・ディクソンは、妻ジョセフィーヌが染理のたびにケガをしてしまうことに心を痛め、彼女が一人でも手当てができるよう、医療用テープの中央にガーゼをつけましたのが始まりです。

